

# 鶴岡市障害者地域自立支援協議会だより

No28 (発行日：令和5年3月15日 発行元：鶴岡市障害者地域自立支援協議会)

## 障害者アート展

さあ咲き誇れ！

つるおかひょうげんの花2022

<目次>

- P1～2 鶴岡市障害者アート展
- P3～7 部会活動報告  
インフォメーション
- P8 ペアレントトレーニング研修会
- P9 障害者個別避難計画について
- P10 リレートーク「やまごや」  
編集後記

今年度4回目を数える障害者アート展が、9月16日～9月25日まで開催されました。開催場所の「鶴岡アートフォーラム」には、個人106人による132作品、個人共同5作品、12団体13作品と多くの作品が展示されました。回数を重ねるごとに、それぞれの思いが伝わる作品が出されています。

個人での何枚もの絵を1つの作品として組み立てたもの、普段の生活をつづった日記や料理のレシピに支援員が個性を見出したもの、地元の特産を作品として大きく仕上げたものなど、それぞれの思いと工夫がみられました。また日常の生活用品を作品として使用したものなど、目の付け所の新鮮さも感じました。

このアート展に出展したことで、他の企業からも展示のお声掛けがあり、自分の作品が取り上げられたことで、自信につながり、目標ができたとの話も伺っています。様々に反響が出た展示会となりました。

新たな取り組みとして、地元のアート活動を紹介しながら、鶴岡でもアートに関わることを広めていこうと、市内で活動している、「とあるアトリエ(仮)」からも参加をいただき、会場内に大きなテントが組み立てられました。色とりどりの自由な絵や、布の作品、また身体での表現活動も披露され、沢山の人の気持ちをわくわくさせていました。



「きざしとまなざし2022やまがた公募展」も毎年共同展示をしており、表現活動の幅広さを感じさせる作品が多くありました。鶴岡からの入選作もあり、来場者は目を細めて、また感嘆しながら鑑賞していました。

アート展が障害理解につながっていくことを願います。



アンケートより

- ・時間を忘れて集中して見せていただきました。好きなことをいっぱい楽しんで素敵な作品を作ってください。
- ・皆さんの想いが形になっていました。カラフル、自由、カミがない。
- ・共生の本質を感じました。
- ・「普通」そういう言葉が覆されます。

# ～自立支援協議会部会報告～

## 【相談支援部会】

相談支援部会では、障害のある方の自立生活と、本人・ご家族が安心して生活できる地域の実現に向けて、①地域課題の抽出・検討、②支援のネットワーク構築に取り組んでいます。また、③「相談支援専門員」の資質向上を目的に、今年度はコロナ禍でもあり、オンライン形式も取り入れながら、活動に取り組みました。

[相談支援部会、研修会、情報交換会の実施状況] \*12月末現在

### ①5月19日 相談支援部会

#### 【グループワーク】

- ・介護保険分野との連携事例
- ・すまいに関する課題の共有

### ②6月22日 地域包括支援センターとの情報交換会

- ・高齢、障害分野の連携事例についての検討(うまく行った点、課題)

### ③7月21日 すまいに関する情報交換会

- ・七窪思恩園、こころの医療センターから話題提供
- ・すまいに関する課題の共有



《R4.7 すまいに関する情報交換会》

### ④9月20日 相談支援部会

- ・緊急時の医療との連携
- ・災害時要支援者への支援

### ⑤10月18日 相談支援部会・地域生活支援拠点の充実に向けて

### ⑥11月16日 相談支援部会

- ・児童期～成人期サービスの移行に関わる課題
- ・身寄りがいない人への支援について

### ⑦12月23日 サービス管理責任者との合同研修会(オンライン)

- ・『行動障害がある方への統一した支援の必要性』

講師 吹浦 荘 池田 満氏

### ⑧2月16日 MSW・PSWとの情報交換会(オンライン)

\*グループスーパービジョン 5回開催

対象:鶴岡市内の相談支援事業所

集合開催:3回、オンライン開催:2回



《R4.6 地域包括支援センターとの情報交換会》

## ○今後の取り組み、来年度の方向性

1. 地域での自立に向けた支援つきのすまいの充実

一般就労している方でも日常生活に関して相談支援や生活支援が必要な方に応える地域資源が充実するような取り組みを考えています。

## 2. 多職種連携

地域包括支援センターやサービス提供事業所との連携強化を継続して取り組みます。

## 3. 相談支援専門員への支援

グループスーパービジョンについて、定期開催の他に相談支援専門員が困った時に開催できるようにしていきます。

## 4. 児童期～成人期サービスへの移行について

障害をお持ちの方の保護者向けに、サービスや制度を理解できるような動画を作成し、学校と連携して周知できるように取り組んでいます。

### 【こども部会】

こども部会では、放課後等デイサービス・児童発達支援事業所の情報交換会を6月に開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大から3年目となり、感染対策を講じながらも、利用されているお子さん方が楽しめる活動をどのように展開していくか、各事業所の皆さんがさまざまな工夫を凝らしながら日々取り組まれていることなどについて情報交換を行いました。



「医療的ケア児への適切な支援に向けた連携について」の取り組みとして、市内の医療的ケア児の保護者を対象とした研修・情報交換会を10月24日に開催しました。今年度の研修内容としては、令和4年7月に開所された山形県医療的ケア児等支援センターの概要や役割をzoomにて伺ったほか、山形県歯科衛生士会より歯科衛生士の志鎌みな子氏を講師としてお招きし、「おうちでできる口腔ケア」を題材にして講演を頂戴しました。効果的なケア方法や医ケア児への口腔ケアを行う際のケア用品などを学ぶことができ、保護者の皆さんからも日々の口腔ケア方法についてたくさんの質問が出されました。また、鶴岡市地域包括ケア推進室からは、鶴岡市が進めている避難行動要支援者個別避難計画の作成について事業概要を伺い、災害時に備えて行政や地域の協力者との連携の必要性などを学びました。

情報交換では、当事者家族同士が交流する場として気兼ねなくお話することができ、開催後のアンケートでは今回のような情報交換の場の開催を求める声が多く聞かれました。「児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブック」並びに「子ども版障害福祉のしおり」を今年度も情報を更新し発行しました。更新した冊子については、保育園や小中学校、相談支援事

業所など関係機関への配布の他、障害福祉サービス等に関する情報を必要とする方が簡単に情報を得られるようにする「かんたんネット検索」の整備として、市のホームページにも各冊子を掲載しています。ぜひご活用ください。



### 【しごと部会】

しごと部会は就労系事業所を構成員として、事業所相互のネットワーク構築、工賃向上を目的に活動している場とハローワーク、特別支援学校、就労移行支援事業所で構成し、障害や働きづらさを抱える方の就労や定着支援を目的に活動している「プロジェクトチーム」に分かれて活動しています。



#### (1) しごと部会

##### ① 就労系事業所相互の情報交換会 多機能型事業所いちほより

「Facebook立ち上げまでの経緯、SNS活用のメリット・デメリット」として話題提供後にテーマ別に話し合いました。

「SNSの管理、更新が大変」「現在請け負いの仕事を無くしたくないため単価交渉しにくい」「健康面の支援に悩んでいる」等の課題が出されました。

##### ② 事業所職員スキルアップ

県障がい者活躍・賃金向上推進室の東海林室長を講師に迎え、「工賃向上に向けた取り組み」として県の共同受注センターについて講義いただき、各事業所で工賃向上に向けた課題や工夫について協議する場となりました

##### ③ 福祉事業所の企業への認知不足

今年度初めて、企業と就労系事業所合同説明会を開催し、外注したい、検討中の企業6社参加し、事業所紹介企業の外注業務紹介を実施しました。外注受注のきっかけとなりました。

##### ④ 事業所製品の販売機会の提供

コロナ禍で販売機会が減っているため、今年度は感染対策を行いながら年2回のきてみて市を開催しました

⑤ 受注コーディネート工賃向上を目的に今年度は企業等から7件の発注依頼がありコーディネートを行っています。また企業向けに事業書全体をPRするチラシの周知も行っています。

#### (2) プロジェクトチーム

##### ① 企業とのつながり強化

企業向けに障害者雇用の研修会を開催し、有限会社畑田鐵工所、株式会社ひまわりより障害者雇用の実践報告をしていただき、働く人を支える相談機関等として、庄内障害者就業・

生活支援センター、就労移行支援事業所アスピアソーシャルアクションより事業紹介していただきました。参加企業2社と少なく企業への周知の課題がありました。

## ②高校(普通)とのつながり強化

就職活動や就職後の支援における実態や課題を共有するために、高等学校・福祉関係機関の情報交換会を開催しました。庄内総合高等学校から「通級指導教室の取り組みや卒業後に向けた他機関との連携について」話題提供いただき、その後、庄内農業高等学校からの事例報告がありました。19機関25名の参加があり、就労定着に向けた連携について協議する場となりました。福祉制度等の更なる周知や早期からの連携の必要性を関したところでした。



## 【発達障害部会】

今年度は、地域課題解決に向けた「具体的な行動計画」実施2年目として、幼児期から学齢期、成人期のそれぞれのライフステージに関わる多分野多職種との連携を図ることで切れ目ない支援体制を構築し発達障害者等への支援の充実に向け活動しました。

(1)切れ目ない相談支援体制の強化  
切れ目のない支援を指標とした「やまがたサポートファイル」について、鶴岡市立小学校及び中学校の特別支援学級在籍児童の保護者、鶴岡養護学校及び鶴岡高等養護学校在籍児童の保護者を対象に、サポートファイルの認知度や活用度について実態調査を行いました。回答数321人(回答率79%)のうち、認知度は「知っている」、「知らない」が同じ割合となりましたが、学校別においては認知度や活用度も差異があり、保護者の皆様からサポートファイルの周知や活用に対する貴重なご意見を頂戴いたしました。調査結果については、サポートファイルの有用性について関係機関と検討していく際に活用して参ります。結果については、市ホームページにも公開しています。



[Ahttps://www.city.tsuruoka.lg.jp/kenko/shogaifukushi/jiritusienkyougikai.files/supportfileanke2022.pdf](https://www.city.tsuruoka.lg.jp/kenko/shogaifukushi/jiritusienkyougikai.files/supportfileanke2022.pdf)

(2)障害理解の啓発活動・成人期のサポート  
義務教育終了後の教育、福祉、労働におけるネットワーク構築に向け、高等学校に在籍している発達障害または支援を要する生徒への支援、就職活

動や就職後の支援における実態や課題を共有するために、高等学校・福祉関係機関の情報交換会を開催しました。庄内総合高等学校から「通級指導教室の取り組みや卒業後に向けた他機関との連携について」話題提供いただき、その後、庄内農業高等学校からの事例報告がありました。19機関25名の参加があり、就労定着に向けた連携を協議する場となりました。

### (3) 専門的人材育成

部会構成員である合同会社ハウスカ代表佐藤広明さんを講師に迎え、ペアレント・トレーニング研修会を開催しました。9家庭のご家族が参加し、宿題にも積極的に取り組んでいただきました。学びを通して、お子さんへの理解が深まり楽しい子育てにつながるこ

## INFORMATION

### 「鶴岡市児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブック」

支援の必要なお子さんが地域で安心して過ごせるよう、ガイドブックを作成しています。

市ホームページにも掲載中です。



### 「子ども版障害福祉のしおり」

障害児を対象とした、ライフステージにおける各種の福祉サービス利用等について総合的な支援を図ります。



とでより良い親子関係が築かれ、健やかな成長への一助になることを願っています。来年度も引き続き研修会を開催していきます。

### (4) 成人期のサポート

適切な相談場所へ紹介できる体系づくりや、成人期における多様なニーズに応じた支援の充実に向け、部会で作成した「発達障害児者に関する相談を受けてくれるところ」に掲載されている相談窓口を対象に情報交換会を開催し、連携強化と成人期における相談対応の資質向上を図りました。13機関18名の参加があり、医療、保健、療育、教育、福祉等多分野での意見交換を実施しそれぞれの現状と課題の共有、切れ目ない支援の連携について協議しました。今後は、当事者やご家族に対する支援、地域や企業への理解啓発を図ると同時に、多分野でのネットワーク構築に向け活動していきます。

### 「就労系障害福祉サービス事業所等ガイドブック」

自立支援協議会しごと部会では、障害福祉サービスを利用して働くことを目指す障害のある方やご家族に事業所を選ぶ際の参考にしていただければと考え作成したものです。障害のある方の仕事・活動の場を地域の中に広げていくことを目的に、本ガイドブックを障害のある方の就労について企業等多くの方々に知っていただくためのツールとしても活用します。

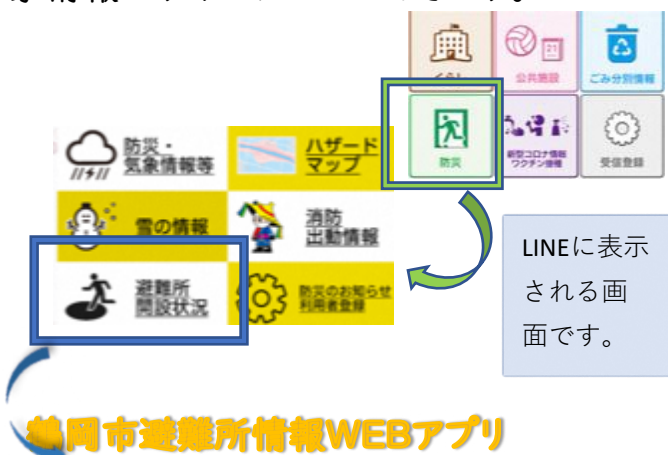


# もしもに備えて知っ得～防災について～

令和4年12月31日の西目地内土砂崩れにより被災された皆さまへ、心からお見舞い申し上げます。

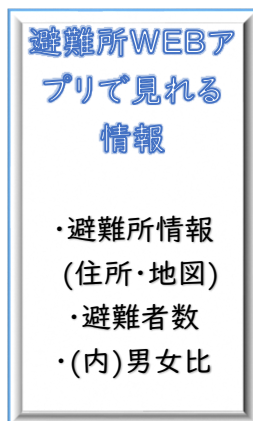
災害はいつ発生するかわかりません。もしもの時に役立つ鶴岡市のLINEの機能をご紹介します。

鶴岡市公式LINEと友だちになり、「防災」をタップすると、ハザードマップや気象情報にすぐにアクセスできます。



現在開設されている避難所の状況についてリアルタイムで確認することができます。\*鶴岡市公式LINEからもアクセスできます。

ぜひ試してみてください！



LINE  
友達登録  
はこちら



鶴岡市HP内、避難所  
WEBアプリページへ  
遷移します

災害時への備えを考えると、第一に「自助」自らの身を自らで守る。第二に「共助」自力での避難が困難な方は地域やコミュニティの支援を受ける。第三に「公助」公的機関による救助・救援と分けることができます。

大規模な災害は人命救助が優先のため、避難所での本格的な生活支援は発災から概ね四日以降です。自宅が安全な場合は在宅避難することも避難行動の一つです。普段から水や食料、電池、生活用品を備蓄することや、自分たちの状況を周りに知らせる手段を確保することが大切です。

## 障害のある方の避難所について

- ①まずはお住まいの地区の避難所に避難してください
- ②一般避難所での生活が困難な方（要配慮者）がいると認められるとき、市は福祉避難所の開設を要請し、連絡調整を行います。

※支援体制の確保など開設に時間を要する場合があります。

現在、特別養護老人ホームや障害者支援施設などの福祉施設27か所と協定を締結しています。





# ペアレント・ トレーニング講座

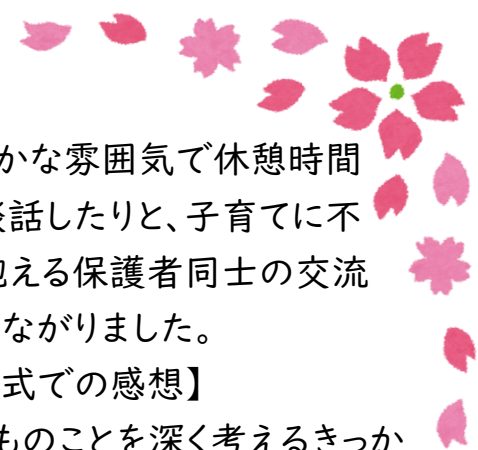
が開催されました!

ペアレント・トレーニングは、お子さんの行動を理解するためのヒントや、より良い関わり方を学ぶことで、楽しく子育てができるように支援する保護者向けのプログラムです。

鶴岡市障害者地域自立支援協議会発達障害部会では、お子さんの発達に不安がある保護者へ向け、合同会社ハウスカ代表佐藤広明氏を講師として迎え、計6回の講座を開催いたしました。

講義とグループワークの中で、家庭での実践を振り返りながら学びを深めました

	日時	講義テーマ
1	6月21日	発達の気になる子どもとペアレント・トレーニング
2	7月22日	子どもの行動を観察して3つに分けよう
3	8月31日	子どもの行動のしくみを理解しよう
4	9月27日	楽しくほめよう —環境調整と親子タイム—
5	10月27日	子どもが達成しやすい指示を出そう
6	11月17日	待ってからほめよう —上手な注目の外し方—

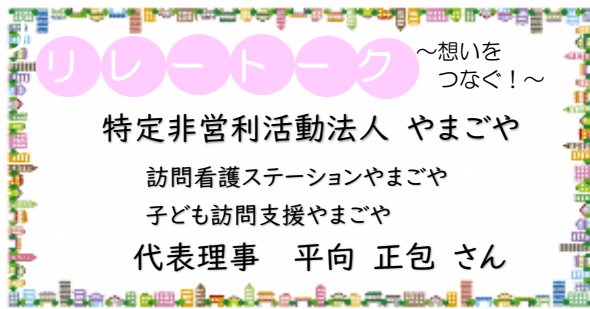



和やかな雰囲気での休憩時間には談話したりと、子育てに不安を抱える保護者同士の交流にもつながりました。

## 【修了式での感想】

- ・子どものことを深く考えるきっかけになった。参加の度に勉強になった。
- ・自分だけが悩んでいるのではなく、皆さん悩んでいるのがわかった。子どもも自分も一緒に成長して楽しく子育てしたい
- ・子育てに困っていない人が受講しても為になる。子どもの立場に立って考えることができるようになり余裕も出来た。
- ・子どもに理解しようと思う気持ちが伝わって、本人も理解力が上がった。ポジティブになれた。皆さんと学べて励みになった。
- ・初回の頃は子育てに余裕がなく、初めての子育てで自身もなく焦りがあった。参加して自信ができて、子育てに関することを学べて余裕もできた。

ペアレント・トレーニング講座は、令和5年度の開催も予定しております。関心のある方はぜひご参加をお待ちしております。



NPO法人やまごやは、障害児者の生活・教育の場を訪問して支援する「アウトリーチ」と、障害理解のためのワークショップなどを通じた「多様性推進」の両輪として活動しています。アウトリーチ事業は、2022年4月から開始した訪問看護に加えて、作業療法士による学校への訪問相談や学童保育等でのコンサルテーション（相談）を行っています。

もう一つの輪、多様性推進事業では、多数派の人々が生活しやすいようにつくられた社会の中で、少数派である障害がある人々とはどのような困難に直面しているのか、ワークショップ（障害平等研修など）を通して地域の人々と共に考える機会を作っています。また、「鶴岡市市民まちづくり活動促進事業」の一つとして、障害や運動の得意不得意に関わらず「身体を動かすことの楽しさを体験してもらいたい」という思いのもと、保育園などで運動遊びの事業を実施しています。一つ一つはとても小さな規模ですが、インクルーシブ社会の実現に向けて多面的な活動を展開しています。



【障害平等研修の様子】

そして、昨年10月からは、居宅訪問型児童発達支援と保育所等訪問支援との多機能型として「子ども訪問支援やまごや」を開設いたしました。居宅訪問型児童発達支援では、医療的ケアや重い障害があるため、外出することが困難なお子さんに、専門的なリハビリや様々な遊びや体験を提供し、発達を促していくものです。訪問看護で活用して

**編集後記:** 令和4年12月31日に発生した西目地区の土砂災害では、2人の尊い命が失われ、避難指示により今も市営住宅等へ避難されている方がいます。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。災害は、いつ、どこで、どんな形で起こるかわかりません。災害の時は、ご近所同士の助け合いが欠かせません。日頃から挨拶や声かけなどを通じて、顔の見える関係を築くことが大切だと思います。支え合いお互いに協力し合う気持ちを構築できたらいいなと思います。

いるデジリハ\*も積極的に活用し、「楽しい」を引き出しながら、個別的な発達支援を行っていきます。また、訪問看護だけでは実現しにくかった近所への外出や長時間の個別支援を提供することも可能になりました。居宅訪問型児童発達から児童発達支援へと段階的に移行することで、お子さんの障害の状態に合わせながら、通所の利用に繋げやすくなると考えています。



【デジリハ★バランスボールの揺れにセンサーが反応する様子】



【デジリハ★天井に投影して行う様子】

もう一つの事業である保育所等訪問支援とは、保育園や小学校等での集団生活の中で、お子さんが安心して過ごすことができる環境を、園・学校の先生方と一緒に考え、サポートする事業です。保育園でも小学校でも利用できる事業ですので、ぜひ、保育園から学校への就学時の切れ目を補うためにも、活用して欲しいと考えています。

最後に、この二つの事業を通して、障害により子ども達の生活や学びの場が分けられることない社会の実現に向けて、さらに幅広く活動していきたいと思えます。そして、登山の道中の「やまごや」のようにホッと、心と身体が満たされる、「やってみよう」に向かって先に進める。そのような空間や時間、場を地域の人々ともに、一歩ずつ踏みしめながら築きあげていきたいと思えます。

\*デジリハとは、デジタルアートと、各種センサーによって起きるインタラクションを活用した、新しいリハビリツールです。夢中で遊んでいるうちにいつのまにかリハビリになっている。デジリハは、そんな景色が「当たり前」になることを目指しています。（デジリハ HPより抜粋）

★NPO法人やまごやHPもご覧ください★

<https://npo-yamago.org/>